

グループワーク用 事例 改善ポイント（例）

個人ワーク後のグループワーク内で
適宜ご活用ください。

これらの各ケースに記載されている内容は、特記事項等の記入の模範例や基本調査項目の選択基準を提示するものではありませんので、その点にご留意ください。

認定調査票（特記事項）

概況

夫との2人暮らしだが、夫は朝から夕方まで仕事に出ているため、日中は一人で過ごしている。市外に住する娘が2人いる。5年前に脳梗塞を発症し、**左上下肢の麻痺が出現した**。糖尿病があり、内服治療中だが、**食事療法や運動は特に行っていない**。夫の立ち合いのもと調査を実施。

1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無、1-2 拘縮の有無、1-3 寝返り、1-4 起き上がり、1-5 座位保持、1-6 両足での立位、1-7 歩行、1-8 立ち上がり、1-9 片足での立位、1-10 洗身、1-11 つめ切り、1-12 視力、1-13 聴力

(1-1・1-2) 脳梗塞後遺症にて左上下肢に不全麻痺があるが、確認動作は全て行えた。関節の可動域制限はない。

(1-3) ベッド柵をつかまなければ横を向くことができない。普段右側臥位で休むことが多い。「2. つかまれば可」を選択。

(1-4) 布団をつかみ手や肘をついて加重すれば、ゆっくりだが起き上がることができた。「2. つかまれば可」を選択。

(1-5) 背もたれがなくても座位保持安定。

(1-6) 支えなしで両足立位保持できた。

(1-7) 平坦な場所でも5m程度であれば、何もつかまらずに1人で歩行できた。左足の運びが悪いため、すり足のゆっくりした歩行で不安定である。

(1-8) 近くの物につかまり手をつけば、立ち上がることができた。「2. つかまれば可」を選択。

(1-9) 支えなしで片足立位保持できた。

(1-10) 毎日1人で入浴して洗身行為も自分で行う。以前風呂の中でのぼせ意識朦朧とし、浴槽に沈みかけていたことが2回あったため、それ以来、入浴中は夫が外から声をかけたり早めに上がらせたりしている。

(1-11) うつむくと気分不良になるため爪切りはできず、手・足とも夫に介助されている。「3. 全介助」を選択。

関連する項目

関連する項目は、まとめて特記事項に記載した方が、審査会委員も読みやすい。

試行する項目（1群は、1-1～1-9、1-12、1-13）

試行結果及び日頃の状況を記載する。
聞き取りを行った場合は、誰から聞き取ったのかを分かるように記載する。

1-10 洗身

選択肢の基準に含まれていない場合でも、介護の手間が発生している場合は特記事項に記載する（「隠れ介助」の把握）。

2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗、2-2 移動、2-3 えん下、2-4 食事摂取、2-5 排尿、2-6 排便、2-7 口腔清潔、2-8 洗顔、2-9 整髪、2-10 上衣の着脱、2-11 ズボン等の着脱、2-12 外出頻度

(2-2) 自宅内は、近くにあるものや壁につかまり1人で移動しているが、**左足が上がらず、すり足気味**。カーペットの縁などにひっかり、転倒することが月1～2回程度ある。外出時は、夫に支えてもらいながら玄関から車まで移動する。買い物の際は店舗内をカートを押してゆっくり移動する。

(2-3) 朝・昼・夜の食事の際、固形物で必ずむせて飲み込みにくさがあると本人より聞く。「2. 見守り等」を選択。

(2-5) 紙パンツと尿取りパッドを使用している。自宅では、自身でトイレに行く（昼2～3回、夜2回）が、2回に1回は移動しているうちに失禁してしまうため、トイレにて自分でパッド交換を行っている。デイサービスでは職員が定時で誘導（2～3回）すると、自分でトイレに行き排泄している。デイサービスではほとんど失禁はない。頻度で「1. 介助されていない」を選択。

(2-6) 1日1回トイレにて排泄。自動洗浄使用後に自分で拭き取り。一連の行為は自分でやっているが、月1～2回紙パンツに便が付着しているときがある。「1. 介助されていない」を選択。

(2-10・2-11) 時間はかかるが、自分で着脱している。「1. 介助されていない」を選択。

(2-12) 週1回デイサービス利用。月1回通院で帰りに夫と一緒に買い物。週1回他市の娘宅訪問。

2-2 移動

「必要な場所への移動」にあたって介助が行われているのかどうかで選択する。転倒の頻度、外出時の様子についても丁寧に聞き取りを行い特記事項に記載する。

2-3 えん下

「むせる」だけでは「2. 見守り等」にはならないことに注意。飲み込みが上手くできず、むせこみが強い状態なのかを確認。

2-5 排尿・2-6 排便

頻度、失敗の状況、昼夜の違いについても記載する。

3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達、3-2 毎日の日課を理解、3-3 生年月日を言う、3-4 短期記憶、3-5 自分の名前を言う、3-6 今の季節を理解、3-7 場所の理解、3-8 徘徊、3-9 外出して戻れない

(3-1) 言葉が聞き取りにくいときもあるが、自分の意思は伝達できた。日頃も同じ。

(3-2～3-7) 全て正答。日頃も同じ。

4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的、4-2 作話、4-3 感情が不安定、4-4 昼夜逆転、4-5 同じ話をする、4-6 大声を出す、4-7 介護に抵抗、4-8 落ち着きなし、4-9 一人で出たがる、4-10 収集癖、4-11 物や衣類を壊す、4-12 ひどい物忘れ、4-13 独り言・独り笑い、4-14 自分勝手に行動する、4-15 話がまとまらない

(4-12) ゴミの分別を教えてもすぐ忘れ全くできないため、週 2 回夫がゴミを分別している。また、月に 1 回鍋こがしをする。「2. ときどきある」を選択。

5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服、5-2 金銭の管理、5-3 日常の意思決定、5-4 集団への不適応、5-5 買い物、5-6 簡単な調理

(5-1) 一包化された薬をケースにより自分で管理している。自分でケースから取り出して飲み、次に飲む薬を入れている。一連の行為は自分で行っているが、1 か月に 5 日以上は残薬がある。飲む際に錠剤をこぼしたり、飲み忘れることがあるのではないかと夫より聞く。飲む際の見守りや指示等が必要な状態と判断し、適切な介助の方法で「2. 一部介助」を選択。

5-1 薬の内服

「一連の行為」だけでは状況が伝わらないため、詳細を記載する。
残薬の状況について記載する。

(5-2) 夫が金銭管理をしており、収支は把握していないが、自分の所持金から自分で孫へお小遣いを準備して渡している。少額の自己管理や計算を行っているため、「2. 一部介助」を選択。

(5-3) 食べたいものや着たい服など、日常的なことであれば自己判断して行動できるが、新しいことや突発的なこと、治療方針などは判断できないため、介護者の支援が必要である。「2. 特別な場合を除いてできる」を選択。

5-6 簡単な調理

選択基準が限定されているため、選択肢の基準に含まれていないことであっても記載することが重要。

(5-5) 月 1 回夫と買い物している。本人も欲しいものは自分で選んでカゴの中に入れるが、買ったばかりのものや不要なものが多いため、日用品・食料品など必要なものは夫が判断しながら購入している。「4. 全介助」を選択。

(5-6) 惣菜やレトルト食品の温めは、毎日のように自分で行っており、炊飯も 2 日に 1 回自分でしている。また、週に 2 回程、みそ汁の調理やカット食材をつかった調理を行っている。しかし、月に 1 回は鍋こがしをすること。「1. 介助されていない」を選択。

6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

特記する事項なし。

7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）、7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) 家屋内は支えなしで 10m 程は歩行できるが、普段は家具や手すり等を伝いながら移動。下肢の上りは悪くすり足で歩行不安定。つまづきや転倒等もみられ、移動時の見守りや外出時の介助が必要な状態である。「A1」を選択。

(7-2) 食事や運動・内服等に声掛けを要す。「IIa」を選択。

認定調査票（特記事項）

概況

平成〇年〇月からグループホームに入所中。夫とは離別している。約 1 年半前に右大腿骨頸部骨折にて入院、手術。約 1 年前に退院した。施設内は、概ね歩行器につかまり移動できるが、パーキンソン病で身体状況に変動がある。理解力や短期記憶の大きな低下はないが、精神状態が不安定で管理面に介助を受ける。昨年より職員の介助を拒む等の行為がみられている。

1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無、1-2 拘縮の有無、1-3 寝返り、1-4 起き上がり、1-5 座位保持、1-6 両足での立位、1-7 歩行、1-8 立ち上がり、1-9 片足での立位、1-10 洗身、1-11 つめ切り、1-12 視力、1-13 聴力

(1-1) 上肢は確認動作ができた。日頃も同様で「ない」とした。筋力低下や動作の緩慢さがある。下肢は、床から 5cm ほどの挙上で確認動作はできなかった。日頃も同様で「ある」とした。その他では、動作が緩慢で指先に力が入らない。

(1-2) 座位・臥位で確認動作を実施した。いずれも確認動作はでき、日頃も同様で「ない」とした。痛みの訴えもない。

(1-3) 試行しようとしたが、無言・無動で全く寝返りはできなかった。日頃も筋力低下や動作の緩慢さがあり、何かにつかまっても寝返りはできないことが多いと聞き取り、「できない」とした。体位交換は行っていない。

(1-4) 試行では、無言・無動で全く起き上がることができなかった。日頃も筋力低下や動作の緩慢さがあり、何かにつかまっても起き上がれないことが多く、ほとんど職員が抱えて起こすと聞き取り「できない」とした。

(1-5) 調査時は、右手で座面のマットをつかみ、左手でベッド柵をつかんで、10 分程度は保持できた。体幹の筋力低下のため、日頃も同様と職員から聞き取り「自分で支えれば可」とした。10 分以上は左後方へ傾き背もたれ等の支えが必要。

(1-6) 不安定であり、サークル型の歩行器につかまって保持できた。日頃も同様で「支えが必要」とした。

(1-7) サークル型の歩行器につかまれば、左へ傾きながらも、ゆっくりと歩行できた。日頃も同様で「つかまれば可」。

(1-8) 試行では、無言・無動で全く立ち上がれなかった。日頃も筋力低下や筋固縮で、何かにつかまっても立ち上がれないことが多く、ほとんど職員がズボンの後ろをつかんで引き上げて立ち上がらせると聞き取り、「できない」とした。

(1-9) サークル型歩行器につかまれば、右足を床から 1~2cm 上げられたが、右足は上げられなかった。日頃も同様。

(1-10) 週 3 回シャワー浴。タオルを持たせても体が固まったまま動かないため、全て職員が洗うと聞き取り「全介助」。

(1-11) 指先に力が入らないため、手足の爪とも職員が切っている。

(1-12) 裸眼では見えないため眼鏡をかけてもらったところ、小さな文字が読めた。日頃も同様。

(1-13) 調査時、普通の声が聞き取れていた。日頃も同様。

2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗、2-2 移動、2-3 えん下、2-4 食事摂取、2-5 排尿、2-6 排便、2-7 口腔清潔、2-8 洗顔、2-9 整髪、2-10 上衣の着脱、2-11 ズボン等の着脱、2-12 外出頻度

(2-1) 移乗の機会は夜間のポータブルへの移乗で 2~10 回である。職員がズボンの後ろをつかんで引き上げ、腰を支えて座らせることがほとんどであるため「一部介助」とした。

(2-2) 施設内のトイレ（4~5 回）・洗面所（1 回）・食堂（3 回）・浴室（週 3 回）・自室等はサークル型の歩行器につかまり移動するが、不安定なため常に職員がそばについて見守っており、職員が後ろから支える介助を行っている。3 回に 2 回は体を支える介助をしていると聞き取り「一部介助」とした。屋外は車いすで全介助で移動する。

(2-3) えん下はできると職員から聞き取る。歯の治療を行っており、粥とキザミ食を食べている。

(2-4) 朝と夕はスプーンを使って自分で食べているが、昼は動きが悪くなり少しも自分で食べないので、全て職員が 30 分ほどかけて食べさせている。頻度より「介助されていない」とした。

(2-5) 日中（4~5 回）はトイレ、夜間（2~10 回）はポータブルで排泄。日中は拭きのみ自分でしておりズボンの上げ下げと水の流しは職員が介助している。夜間も拭きのみ自分で言い、ズボンの上げ下げ、ポータブルの後始末（翌朝一括）を職員が行っている。日中・夜間ともに「一部介助」。失禁やトイレの汚しはほとんどない。

(2-6) 緩下剤や座薬を使用し 3 日に 1 回程度、トイレで排泄する。排尿同様、ズボンの上げ下げや水の流しを職員が行い、拭きのみ自分で言うが、拭き残しがあるため職員が拭き直している。「全介助」とした。失禁やトイレの汚しはほとんどない。

(2-7) 自歯 2 本で義歯を使用。朝夕は、職員がブラシに歯磨き粉をつけると、自分で義歯を出し入れし自歯・義歯の洗浄を行う。昼は動きが悪くなるため、義歯の出し入れのみ自分で言い、自歯・義歯の洗浄は職員が行う。口腔内のゆずぎも職員が口にコップをあてると言うとのこと。朝昼夕いずれも「一部介助」。

(2-8) 洗面台に寄りかかり、自分で顔を洗う。タオルもそばに置いてあるものを使用し自分で拭くため、「介助されていない」とした。立位が不安定なときが週 2~3 あり、そのときは職員が体を支えている。

2 群全体（2-3 えん下以外）
全体的に、頻度、介護の手間などの記載が不足している。
時間帯による違いについても記載が必要。
排泄関係は、失敗の有無などについても記載する。

- (2-9) ブラシは洗面台に置いており、洗顔したときに自分で整髪している。立位が不安定なときが週 2～3 あり、そのときは職員が体を支えている。
- (2-10) 入浴時のみ更衣している。動きが悪いので、職員が衣類を被せたり肩から掛けたり介助を行うが、袖に手を通す協力動作はあるため、「一部介助」とした。
- (2-11) 職員が足元でズボンを広げても足を通すことはできず、職員が足首をつかんでズボンに足を通しており協力動作もできない。引き上げともに介助が必要と聞き取り、「全介助」をした。
- (2-12) 週 2 回外来リハビリへ病院の送迎で通う。月 1 回娘の送迎を受けて病院を受診し、帰りに買い物や外食をし帰宅する。いずれも車いす介助で移動する。

3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達、3-2 毎日の日課を理解、3-3 生年月日を言う、3-4 短期記憶、3-5 自分の名前を言う、3-6 今の季節を理解、3-7 場所の理解、3-8 徘徊、3-9 外出して戻れない

- (3-1) 調査時は声が低く小さく聞き取りにくかったものの、ゆっくりと全ての質問に適切な返答があり意思の伝達はできていた。日頃も自分の言いたいことを言うことができると聞き取り「できる」とした。
- (3-2) 起床・食事・就寝時間を答えた。日頃も日課の理解はできていると職員から聞き取り、「できる」とした。
- (3-3・3-5～3-7) 正答。
- (3-4) 訪問直前はテレビを見ており、正答だった。日頃も短期記憶は問題ないと職員から聞き取り、「できる」とした。調査時は、数時間前に食べた朝食の献立まで答えることができた。
- (3-8・3-9) 該当する行動はない。

4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的、4-2 作話、4-3 感情が不安定、4-4 昼夜逆転、4-5 同じ話をする、4-6 大声を出す、4-7 介護に抵抗、4-8 落ち着きなし、4-9 一人で出たがる、4-10 収集癖、4-11 物や衣類を壊す、4-12 ひどい物忘れ、4-13 独り言・独り笑い、4-14 自分勝手に行動する、4-15 話がまとまらない

- (4-1・4-2) 「パンツが汚いのは、誰かが穿いていたからだ」「ズボンをあの人に盗まれた」等と事実と異なる被害妄想を言うことが、以前より少なくなったが、月 1-2 回あると職員より聞く。その際、職員は話を聞いて事実を説明するが、なかなか本人が納得しないため、本人の気がそれるまで別の話題の話をしており、対応に時間がかかるとのこと。
- (4-3) 感情が不安定とまでは言えないが、医師の診察や薬の変更などをきっかけに、心配や不安で夜眠れなくなることがある（月 2 回程度）。その際、職員は付き添って眠れるまで話をしている。
- (4-4～4-6・4-8～4-15) 該当する行為はないと職員から聞き取る。
- (4-7) 自分の体調や子どものことなどで不安に思ったり悩んでいるときは、介助しようとする職員に暴力（手をたたき、足をける等）を振るったり、他の入所者に暴言を吐いたりする（週 2～3 回）。職員は本人の様子が落ち着くまで他の入所者と離して、時間をおいてから話しかけたり介助を行っている。

4-1 被害的・4-2 作話・4-7 介護に抵抗
頻度や周囲の者の対応状況について記載する。

4-3 感情が不安定
選択肢の基準に含まれていない場合でも、介護の手間が発生している場合は特記事項に記載する（「隠れ介助」の把握）。

5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服、5-2 金銭の管理、5-3 日常の意思決定、5-4 集団への不適応、5-5 買い物、5-6 簡単な調理

- (5-1) 精神状態が不安定なため、職員が内服を管理している。こぼすため、薬と水の用意から口に入れるところまで介助を行っており、「全介助」とした。たいていの場合は、水は自分で飲む。
- (5-2) すべての金銭管理は娘が行っており、「全介助」とした。ただし、簡単な計算はできる。
- (5-3) 日課や季節の理解はあり、日常生活のできる部分は自分で行う。精神状態が不安定で医師の治療方針の合意等には家族の指示や支援が必要なため、「特別な場合を除いてできる」とした。
- (5-5) 入所中であり、すべての食材や日用品は職員・家族が購入している。ここ 1 週間に 1 回「パンを買ってきて」と依頼があったが、食事が入らなくなるので説得して購入しなかった。
- (5-6) 入所中であり、すべて職員が炊飯・調理したものを摂取する。

6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

特記する事項なし。

7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）、7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

- (7-1) 日常生活は部分的に介助が必要であるが、つかまりながら歩行で移動できる。週 2 回介護者の付き添いを受け外来リハビリに通っており頻回な外出ができることから「A1」とした。
- (7-2) 精神状態が不安定で時々被害妄想があったり管理面に介助を受けるが、意思の疎通ははかれ、概ねの理解力は保たれており、短期記憶の低下もないことから「I」とした。